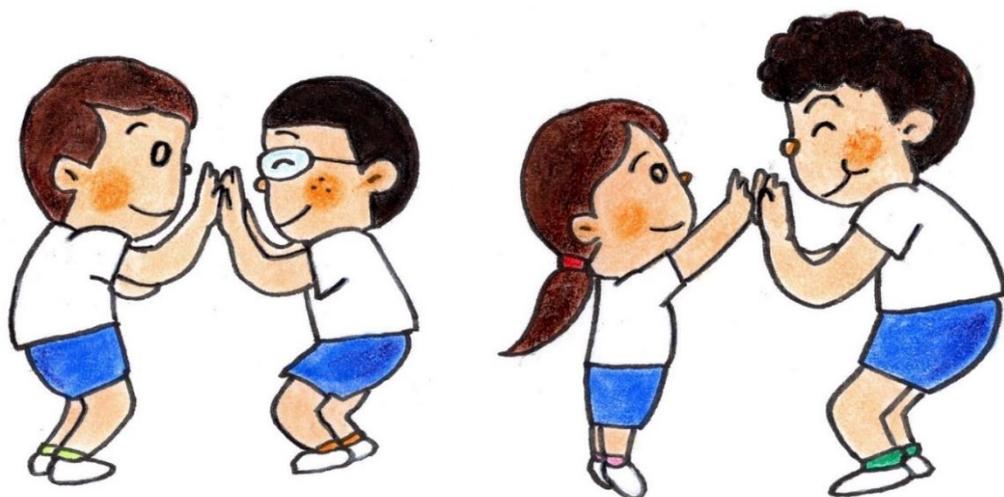


子供同士で関わる力が育つ  
グループワーク集



県立常陸太田特別支援学校

宍戸 佳代

## はじめに

「コミュニケーションが課題の子供の自立活動って何をすれば良いの？」

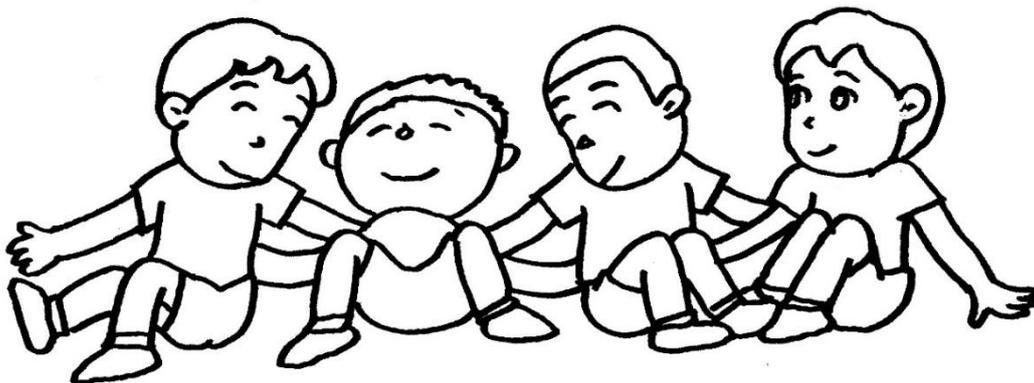
「子供同士の関わりはどのように深めるの？」

私はそんな不安を抱えて授業作りをしてきました。その不安を解決するために取り組みが、グループワークです。

グループワークは、正保春彦先生の「心を育てるグループワーク楽しく学べる72のワーク」を参考にして、知的障害特別支援学校の子供たちが取り組めるようにアレンジしました。

「やってみようかな」と思うものがあれば、ぜひ児童生徒の実態に応じて改善し、取り組んでいただければと思います。

先生方の自立活動の指導の一助となれば幸いです。



\*表紙及びグループワーク集で使用しているイラストは、茨城県教育研修センター特別支援教育課 大沢靖司主査が描いてくださいました。心より感謝いたします。

# 目次

I	グループワークについて	1
II	共有の発達について	2
III	ワーク集のレイアウト	3
IV	グループワークの一覧	
1	〇〇へ行こう(レストラン編)	4
2	同時に聞き取ろう	5
3	ボール回し	6
4	手合わせ	7
5	オオカミとヒツジ	8
6	まねっこ体操	9
7	ひっつき虫取り	10
8	手袋合わせ	11
9	お手玉運び	12
10	いろいろ歩き	13
11	棒キャッチ	14
12	輪になってそりかえろう	15
13	ジェスチャーゲーム	16
14	大きくなあれ	17
15	一筆書き	18
16	カードめくり	19

# I グループワークについて

このグループワークは、インプロの要素を取り入れています



インプロって何ですか？

インプロは、即興演劇を示すインプロビゼーションのことで、型にとらわれず自由に作り上げる劇のことです。例えば、出されたお題に沿って、一人が一言だけしゃべるというルールで、順番に物語を作っていくものがあります。



インプロで大切な要素は何ですか？

- ・ その場の状況や相手に柔軟に応答する
- ・ 他者との関わりの中で成立する
- ・ 楽しむ過程の中で学んでいく

の3点を大切にしています。

予定調和的にいかないことが多い活動ですが、本来、人との関わりは思い通りにいかないですよ。



日常生活に近い形で人との関わりを経験できるのですね。

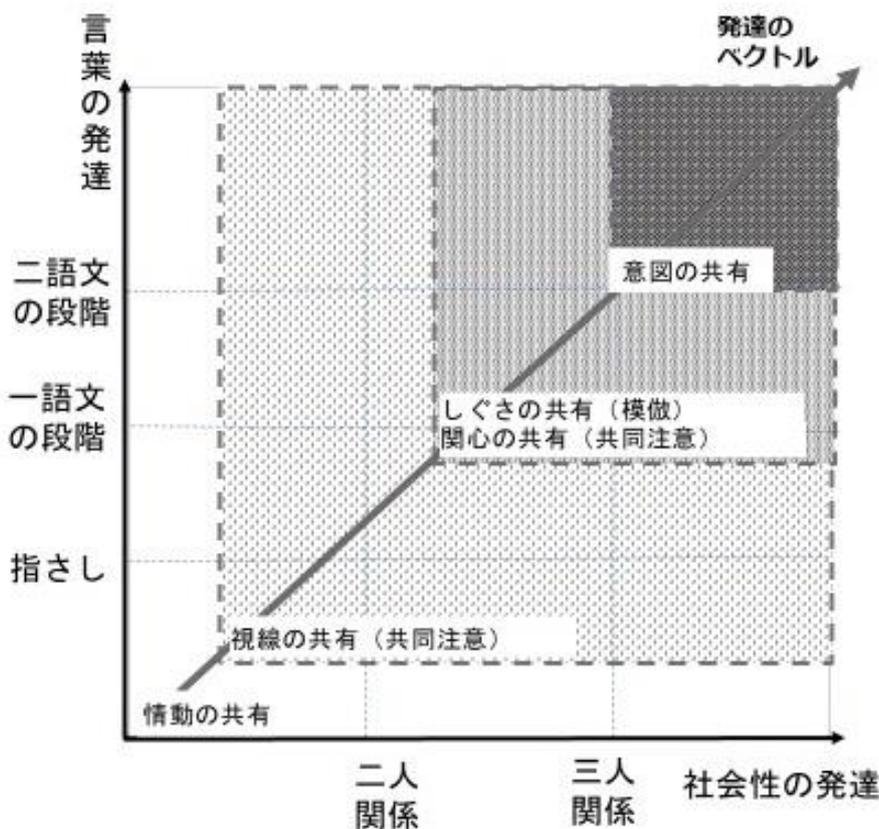
## 2 共有の発達について

共有の発達を視点に子供同士の関わりを捉えます



共有の発達って何ですか？

人と何を「共」にしているのかに焦点をあてたものです。  
下の図を見て下さい。  
言葉の発達や社会性の発達が進むと他者と共有できる  
ものが広がります。



### 視線の共有

友達とアイコンタクトが  
できているか、など。

### 関心の共有

友達が興味を向けている  
ことに、関心をもつことが  
できるか、など。

### しぐさの共有

友達の動きの模倣ができ  
るか、など。

### 意図の共有

自分がやりたいことと友  
達がやりたいことをすり  
合わせるができるか、  
など。



グループワークに取り組みながら、子供がどのような「共  
有」をしているのかを意識してみますね。

### 3 ワーク集の見方

## 学習指導要領における自立活動の区分

自立活動の区分 人間関係の形成 (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること	コミュニケーション (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること
---	--

### 3 ボール回し

友達の間を見てボールを回そう

ねらい 友達の間を見てボールのやりとりをすることができる。



【授業の流れ】

準備物	人数
<ul style="list-style-type: none"> <li>大きめのボール</li> <li>色ボード（全員から見える大きさ）</li> </ul>	3人～数人
	時間
	5分～10分

#### 展開

教師の支援や動きを示す。

1 全員で輪になって椅子に座る。

教師と一緒に輪に入り、そのうち1人はボードを持つ。

2 ボールを隣の人に回す。ボードの色を変えることで、右回り、左回りなど回す方向を変える。  
 ・例えば、赤は右回り、青は左回りとする。  
 ・かけ声をかけてボールを回す。ボードの色の「あか」「あか」のかけ声で回す。

ボールを渡したり、受け取ったりするときに、友達

### 発展編の活動内容

・かけ声と一緒にボールを回す。

#### 発展編

- ・ボードを果物の名称等にする。
- ・ボールの数を増やす。
- ・アイコンタクトだけでボールのやりとりをする。
- ・隣の人以外の人にボールを渡す。

【共有の発達における指導のポイント】

視線の共有	言葉	かけ声のリズムを意識する。
	社会性	友達がボールを回す様子に注目する。
関心しぐさの共有	言葉	ボードの色の名称を知る。
	社会性	視線のやりとりをしてボールを回す。
意図の共有	言葉	リズムを意識してかけ声をかける。
	社会性	友達とタイミングを合わせてボールを回す。

#### 【実際に活動してみてください】

ボールの大きさによって子供の反応が変わりました。大きなバランスボールや小さなゴムボールなど様々な大きさのボールを準備すると活動の幅が広がりました。

# 1 ○○へ行こう（レストラン編）

## 言葉をつなげて話を広げよう

ねらい 友達の言葉をつなげて、話を広げることができる。



### 【授業の流れ】

準備物	人数
絵カード（レストランのメニュー）	2人～数人
	時間
	10分～15分

**展 開**

☐ 教師の支援や動きを示す。

- 「レストランへ行こう」のテーマに合わせて、食べたいものを1人1枚絵カードを選ぶ。
 

友達と同じものを選んで良い。その児童の選択を尊重する。
- 選んだ絵カードをホワイトボードに貼り、話を広げる。
 

(例) Aさん 教師 「ハンバーグ食べたい」  
教師 「どんなハンバーグ？」  
Bさん 教師 「チーズハンバーグ」  
教師 「どのくらいの大きさのチーズハンバーグ？」  
Cさん 教師 「ボールの大きさのハンバーグが食べたい」  
教師 「どんなボール？」

実態に応じて教師が助詞や接続詞を補う。
- レストランで食べたいもの注文する設定で、みんなで食べるジェスチャーをする。
 

**発展編**

「動物園へ行こう」「遊園地へ行こう」などテーマを変える。

### 【共有の発達における指導のポイント】

視線の共有	言葉	絵カードのイラストに注目する。
	社会性	友達が絵カードを選ぶ様子を見る。
関心しぐさの共有	言葉	メニューの名称を知る。
	社会性	友達が選んだメニューを知り、友達の返答に関心を示す。
意図の共有	言葉	単語と単語をつなぐ接続詞の働きを知る。
	社会性	教師の質問に答え、それを友達に伝えることができる。

【実際に活動してみよう】  
言葉だけで会話をつなげていくことは難しく、レストランのメニューに関する具体物が有効でした。例えば、カレールの箱を用意し、どの辛さを頼むのかを選ぶなど、言葉を補う教材が役に立ちました。

- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること
- (3) 自己の理解と行動の調整に関すること
- (4) 集団への参加の基礎に関すること

- (2) 言語の受容と表出に関すること
- (3) 言語の形成と活用に関すること

## 2 同時に聞き取ろう

### 同時に言われた言葉を聞き取ろう

ねらい

- ・友達に伝わるようにはっきりとすることができる。
- ・友達の言葉を集中して聞くことができる。



#### 【授業の流れ】

準備物	人数
2文字の平仮名（絵）カード（例えば、「かめ」「かい」などの言葉を1枚に1つ書く。複数のカードの言葉を同時に言う。）	3人～数人
	時間
	10分～15分

#### 展開

教師の支援や動きを示す。

- 1 聞く人（1人）と言うグループ（2、3人）に分かれる。
- 2 言うグループはカードをそれぞれ1枚選ぶ。
- 3 言うグループはカードに書かれた言葉を同時に言う。聞く人は、同時に言われた複数の言葉を聞き分ける。
  - ・言う人達が同時に言えるように、「せえの」などのかけ声をかける。

話すことが難しい場合にはVOCAなどの代替コミュニケーション手段を用いる。

- 4 聞く人は、何と何の言葉を言われたかを当てる。

言葉を当てる際には、実態に応じてカードなどを用意して選べるようにする。

#### 発展編

1つの言葉を1文字ずつ同時に言う。例えば、「か」「え」「る」と3人が同時に1文字ずつ言い、聞く側が「かえる」と当てる。

#### 【共有の発達における指導のポイント】

視線の共有	言葉	カードの言葉を知る。
	社会性	聞く人になる時には、言う人を見る、言う人になる時には、聞く人を見る。

関心しぐさの共有	言葉	音節を意識して聞く。
	社会性	「せえの」と友達とタイミングを合わせて言う。

意図の共有	言葉	聞き取った言葉をイメージする。
	社会性	友達が聞き取りやすい言い方をする。

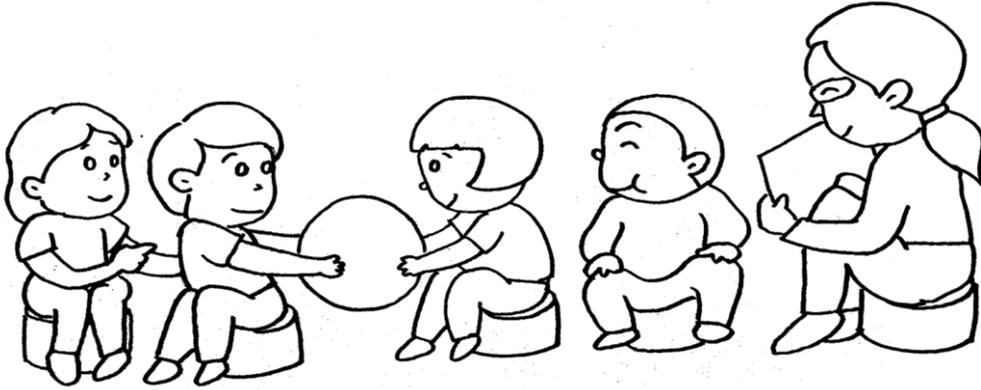
#### 【実際に活動してみよう】

友達と同じタイミングで言葉を言うと、友達の言葉につられて同じ言葉をいう子供がいましたが、教師と一緒に言うなど配慮しました。

# 3 ボール回し

## 友達の間を見てボールを回そう

ねらい 友達の間を見てボールのやりとりをすることができる。



### 【授業の流れ】

準備物	人数
<ul style="list-style-type: none"> <li>大きめのボール</li> <li>色ボード（全員から見える大きさ）</li> </ul>	3人～数人
	時間
5分～10分	

展 開	
<p>教師の支援や動きを示す。</p>	
<p>1 全員で輪になって椅子に座る。</p> <p>教師と一緒に輪に入り、そのうち1人はボードを持つ。</p>	
<p>2 ボールを隣の人に回す。ボードの色を変えることで、右回り、左回りなど回す方向を変える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、赤は右回り、青は左回りとする。</li> <li>かけ声をかけてボールを回す。ボードの色の「あか」「あか」のかけ声で回す。</li> </ul> <p>ボールを渡したり、受け取ったりするときに、友達の間を見ることができるようにする。</p>	
<p>3 ボードの色を変えて、ボールを逆方向に回す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かけ声をかけてボールを回す。</li> </ul>	
<p>発展編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボードを果物の名称等にする。</li> <li>ボールの数を増やす。</li> <li>アイコンタクトだけでボールのやりとりをする。</li> <li>隣の人以外の人にボールを渡す。</li> </ul>	

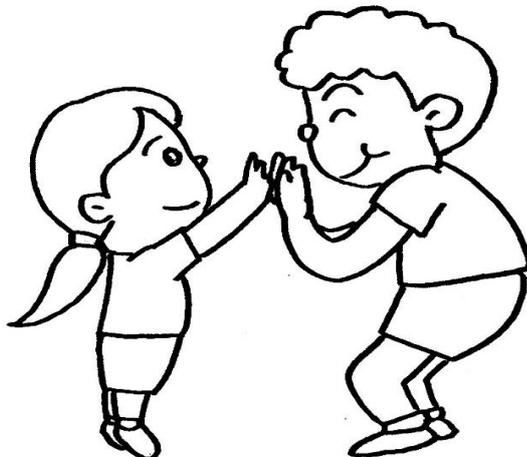
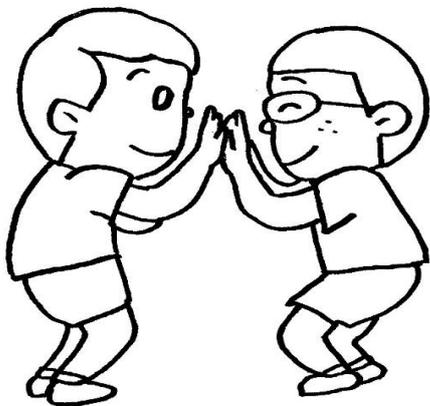
### 【共有の発達における指導のポイント】

視線の共有	言葉	かけ声のリズムを意識する。
	社会性	友達がボールを回す様子に注目する。
関心 しぐさの共有	言葉	ボードの色の名称を知る。
	社会性	視線のやりとりをしてボールを回す。
意図の共有	言葉	リズムを意識してかけ声をかける。
	社会性	友達とタイミングを合わせてボールを回す。
<p>【実際に活動してみて】</p> <p>ボールの大きさによって子供の反応が変わりました。大きなバランスボールや小さなゴムボールなど様々な大きさのボールを準備すると活動の幅が広がりました。</p>		

# 4 手合わせ

お互いの掌を合わせよう

ねらい お互いにテンポを合わせて掌を合わせることができる。



【授業の流れ】

【共有の発達における指導のポイント】

準備物	人数
なし	2人～数人
	時間
	5分～10分

**展 開**

☐ 教師の支援や動きを示す。

- 2人で向かい合う。
- 自分の両掌を合わせて拍手を1回する。  
友達とテンポを合わせて行う。友達がゆっくりな場合は、ゆっくり行う。
- その両掌を向かい合っている友達と合わせる。その後、拍手を2回する。
- また、その両掌を友達と合わせる。拍手を3回に増やす。  
拍手の回数を増やすことが難しい場合には、両掌を合わせて、1回拍手をするを繰り返す。

**発展編**

- 人数を増やす。
- 拍手の回数を5回まで増やし、その後は4回、3回と減らす。
- しゃがんで両掌を合わせるなど高さを変える。

視線の共有	言葉	数字のリズムを意識する。
	社会性	友達を見て掌を合わせる。
関心 しぐさの共有	言葉	数えている数字を知る。
	社会性	友達を見てから自分の掌を出したり、拍手をしたりする。
意図の共有	言葉	数えている数字と拍手の数を一致させる。
	社会性	友達とペースに合わせて掌を合わせる。

【実際に活動してみて】  
最初はゆっくりでも、慣れてくるとスピードをあげて楽しく取り組むことができました。

- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること
- (3) 自己の理解と行動の調整に関すること
- (4) 集団への参加の基礎に関すること

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること
- (2) 言語の受容と表出に関すること

# 5 オオカミとヒツジ

## オオカミから子ヒツジを守ろう

ねらい オオカミの動きをよく見て、親ヒツジが子ヒツジを守ることができる。



【授業の流れ】

【共有の発達における指導のポイント】

準備物	人数
オオカミのお面	3人~数人
	時間
	5分~10分

視線の共有	言葉	オオカミ、ヒツジの名称を知る。
	社会性	オオカミの動きを見る。

☐ 教師の支援や動きを示す。

- オオカミ役を1人決め、その他はヒツジ役となる。
- ヒツジ役の先頭は親ヒツジで、他の羊は子ヒツジとする。親ヒツジを先頭にして一列になる。

☐ オオカミが怖い子供やオオカミになりたくない子供に対して教師が代わるなど配慮する。

- オオカミは子ヒツジを捕まえる。親ヒツジは子ヒツジが捕まらないようにオオカミの前に移動して子ヒツジを守る。

☐ 発展編  
オオカミ役を増やす。

関心しぐさの共有	言葉	オオカミが強くてヒツジが弱いなどの特徴を知る。
	社会性	ヒツジ役の友達と一列でオオカミの動きに合わせて逃げる。

意図の共有	言葉	友達と言葉をかけ合いながら、オオカミから逃げる。
	社会性	オオカミから子ヒツジを守るための動きを考える。

【実際に活動してみてください】

オオカミが怖くて、ヒツジ役の子供が列から離れてバラバラに逃げることもあり、ヒツジの列の人数を減らして取り組みました。

# 6 まねっこ体操

友達の動きをまねしよう

ねらい 友達の動きと同じように動くことができる。



【授業の流れ】



【共有の発達における指導のポイント】

準備物	人数
なし	2人～数人
	時間
	5分～10分

**展 開**

☐ 教師の支援や動きを示す。

- 2人で向かい合う。
- 1人が動き、もう1人が真似をする。

最初は真似をしたりされたりする意識をもつために、少し動いて止まる（ストップモーション）。

ゆっくり動く、速く動くなど動きに変化をつけたり、表情をつけたりして楽しめるよにする。

発展編

- 顔の表情だけを真似する。
- 感情を表現し、真似する。
- 1つずつ動きをずらして真似る。

視線の共有	言葉	上、下など位置を表す言葉を知る。
	社会性	友達の動きを見る。
関心しぐさの共有	言葉	止まる、ゆっくりなどの言葉を知る。
	社会性	友達に合わせて動く。
意図の共有	言葉	動きを自分なりに言葉で表す。
	社会性	表情を変化させて伝える。

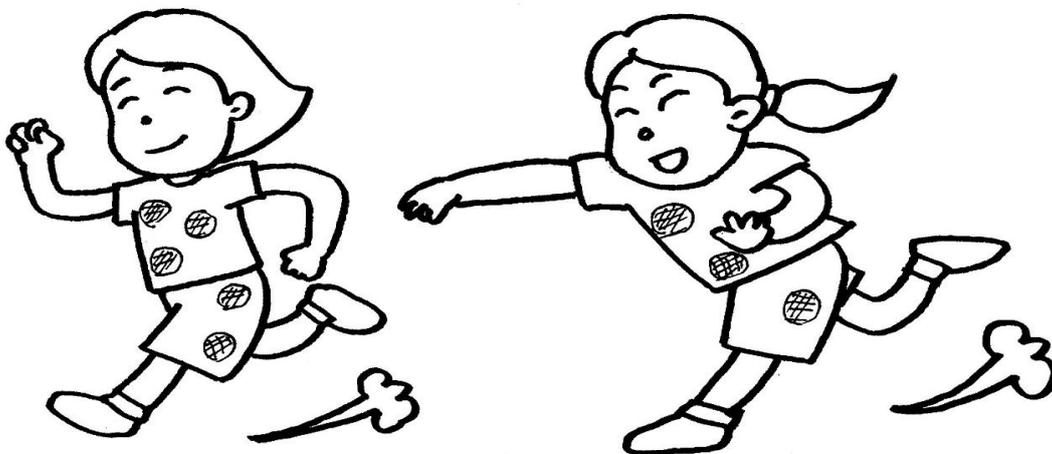
【実際に活動してみても】

真似する側と真似される側のどちらがどの役割なのか分からなくなりますが、そのことが楽しくて、取り組みました。

# 7 ひっつき虫取り

## ひっつき虫を集めよう

ねらい 友達の体についているひっつき虫をたくさん集めることができる。



### 【授業の流れ】

準備物	人数
ガムテープ（丸めてひっつき虫とする）	3人～数人
	時間
	10分～15分

**展 開**

☐ 教師の支援や動きを示す。

- ガムテープを丸める。
- ひっつき虫（丸めたガムテープ）を自分の体につける。
  - ひっつき虫をつける場所は自分で決める。相手が取りにくい場所を考えてつける。

☐ ガムテープの場所を自分で決めることが難しい場合には、体のイラストなどを用意して示す。

- 友達の体についたひっつき虫をできるだけたくさん取る。取ったひっつき虫は自分の体につける。

**発展編**

ひっつき虫をつける場所によって点数を変える。取りにくい場所（足の先など）は点数を高くする。

### 【共有の発達における指導のポイント】

視線の共有	言葉	数唱をする。
	社会性	友達の動きを見て逃げる。
関心しぐさの共有	言葉	ひっつき虫の数を数える。
	社会性	友達の動きを見てひっつき虫を取る。
意図の共有	言葉	ひっつき虫の数を比べる。
	社会性	友達が取ることが難しい場所を意識してひっつき虫をつける。

【実際に活動してみてください】  
自分のひっつき虫を取る代わりに、自分から友達や教師に渡す子供がいましたが、ひっつき虫を渡すことで友達と関わる姿が見られました。

# 8 手袋合わせ

同じ手袋をはめた友達をみつけよう

ねらい 自分と同じ手袋をはめている友達を見つけることができる。



【授業の流れ】

準備物	人数
手袋（軍手のにアップリケ等をつけてもよい）	4人～数人（偶数）
	時間
	10分～15分

**展 開**

☐ 教師の支援や動きを示す。

- 1 各々が手袋の片方だけをつける。
- 2 自分のもう片方の手袋をつけている人を見つける。  
 友達の手袋と見比べるときに、相手の顔を見て話す、「見せて」「どうぞ」などの言葉をかける、うなずくなどのやりとりができるようにする。
- 3 片方の手袋をしている人が見つかったら、その場に座る。

**発展編**

無地の手袋に2分割のイラストをつけ、絵合わせにする。

【共有の発達における指導のポイント】

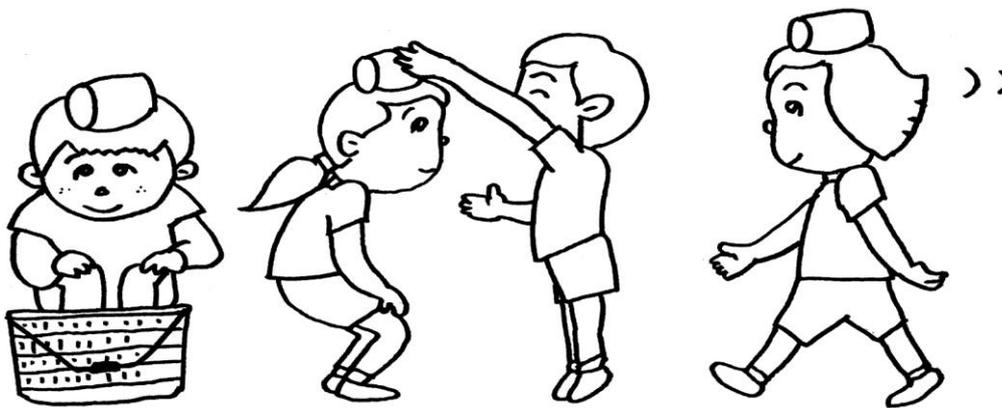
視線の共有	言葉	自分なりに声をかけたり、友達の声かけに応じたりする。
	社会性	友達と一緒に手袋を見る。
関心しぐさの共有	言葉	「見せて」「どうぞ」などの言葉を使ってやりとりをする。
	社会性	友達に聞いて手袋の柄を比べる。
意図の共有	言葉	自分から友達に話しかける。
	社会性	手袋の柄を言葉で表現する。

【実際に活動してみて】  
活動にメリハリをつけるために、カウントダウンをして制限時間を設けると、子供たちは真剣に友達を探ることができました。

# 9 お手玉運び

## 頭にお手玉をのせて運ぼう

ねらい 落ちたお手玉を友達にのせてあげたり、のせてもらったりできる。



### 【授業の流れ】

準備物	人数
<ul style="list-style-type: none"> <li>• お手玉（人数分）</li> <li>• かご</li> </ul>	3人～数人（偶数）
	時間
10分～15分	

**展 開**

☐ 教師の支援や動きを示す。

- 2人ペアになりお手玉をのせて歩く人と、お助けマンに別れる。
- お助けマンは、友達の様子が見え、友達からも見える位置で待機する。
 

お手玉が落ちた場合には、お助けマンに声をかけたり、手を振って合図をしたりできるようにする。難しい場合には、直接呼びに行くなど、関わる場面を大切にする。
- お手玉が落ちたら、お助けマンが拾い、頭にのせる。
 

ペアの友達のお手玉が落ちたら、自分から友達のところへ行けるようにする。

**発展編**

- 歩くコースに障害物を置く。
- 2人ペアで手をつないで歩く。

### 【共有の発達における指導のポイント】

視線の共有	言葉	自分なりに声をかけたり、友達の声かけに応じたりする。
	社会性	友達にお手玉をのせたり、のせてもらったりする。
関心しぐさの共有	言葉	「ありがとう」「どうぞ」などのやりとりの言葉を使う。
	社会性	友達に話しかけて、お手玉をのせたり、のせてもらったりする。
意図の共有	言葉	自分の役割に応じて、友達に声を掛ける。
	社会性	お手玉が落ちたときに助けを求めたり、お手玉を落とした友達を見つけたりして助ける。

【実際に活動してみて】  
お手玉としてビーズバックを使用しましたが、頭から滑りやすかったので、毛糸を巻いて使うなど工夫しました。

# 10 いろいろ歩き

## いろいろな歩き方で歩こう

ねらい さまざまな状況や気持ちを歩き方で表現することができる。



### 【授業の流れ】

準備物	人数
課題カード（嬉しい歩き方、怒った歩き方、大股歩きなどが書かれているもの）	2人～数人
	時間
	5分～10分

### 展 開

教師の支援や動きを示す。

- グループAとBに分れる。グループBは、グループAの動きを見ていて、後で交代する。

友達の歩いている様子をヒントとするなど、その人なりの表現を引き出すようにする。

- 課題カードに示された歩き方で教室の中を自由に歩く。

いろいろな歩き方をしたときの感想を伝え合ったり、歩き方を変えると気分も変わったりすることに気付くことができるようにする。

- グループBと交代する。

### 発展編

ボールを持って歩く。例えば、前に抱える、2人で持って歩く、背中にのせて歩くなど様々なバージョンで行う。

### 【共有の発達における指導のポイント】

視線の共有	言葉	気持ちや状況を表す言葉を知る。
	社会性	歩いている友達を見る。

関心しぐさの共有	言葉	歩き方を表した表現を知る。
	社会性	友達の歩き方を見て、自分の歩き方のヒントとする。

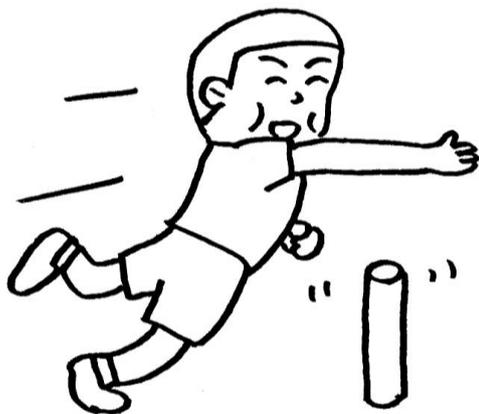
意図の共有	言葉	言葉のイメージから歩き方を考える。
	社会性	イメージにあった歩き方を友達と一緒にする。

【実際に活動してみてください】  
太鼓などの楽器でリズムをとると、歩き方のバリエーションが広がりました。

# 11 棒キャッチ

## 棒が倒れる前にキャッチしよう

ねらい 友達とタイミングを合わせて棒をキャッチすることができる。



【授業の流れ】

【共有の発達における指導のポイント】

準備物	人数
新聞紙で作った棒（児童の腰位の高さ）	2人～数人
	時間
	5分～10分

**展 開**

☐ 教師の支援や動きを示す。

- 3人で輪になる。
- 1人ずつ棒を持ち、倒れないように手で押さえる。
- 「せいの」で一斉に1つ右に移動する。棒はその場に残り、人だけが移動する。棒が倒れる前に、次の人が棒を支える。

☐ 難しい場合には、2人で直線上を移動する。

**発展編**

人数を増やす。

視線の共有	言葉	かけ声を意識する。
	社会性	友達の動きを見る。
関心しぐさの共有	言葉	様々なかけ声を知る。
	社会性	友達の動きを見て、棒が倒れる前に移動する。
意図の共有	言葉	友達と一緒にかけ声をかける。
	社会性	友達とかけ声をかけ合い、タイミングを合わせて、棒が倒れる前に移動する。

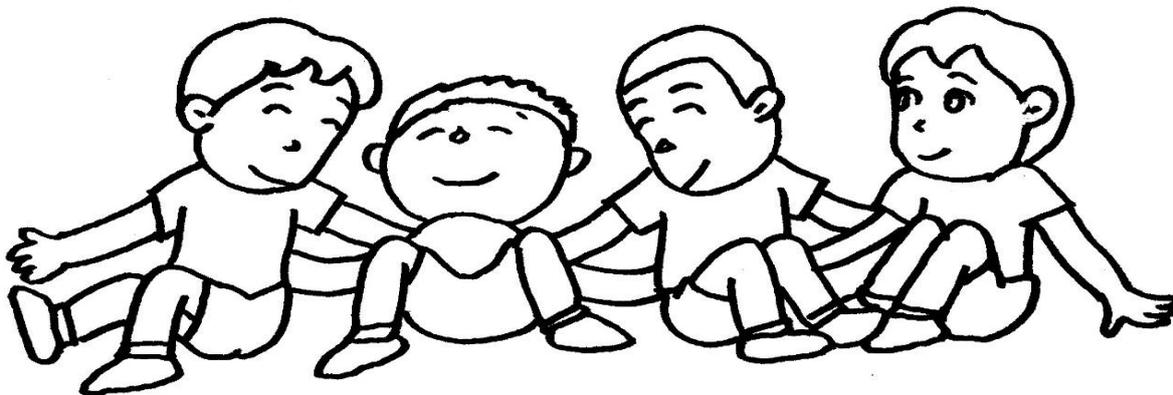
【実際に活動してみて】  
3人で輪になって行うことは難しかったですが、2人ペアで移動する距離を短くしたり長くしたりしながら取り組みました。

# 12 輪になってそりかえろう

輪になって座り、友達に支えてもらいながらそりかえろう

ねらい

- ・友達に体重を預けることができる。
- ・友達の動きに合わせて支えることができる。



### 【授業の流れ】

準備物	人数
なし	3人~数人
	時間
	10分~15分
展 開	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">教師の支援や動きを示す。</div> <p>1 全員で輪になって体操座りになる。</p> <p>2 お互いの腰に手を回す。</p> <p>3 かけ声で一人ずつ順番に後ろにそらせて、輪に体重をかけていく。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-top: 10px;">マットの上で実施する、教師が間に入るなど安全面に配慮する。</div> <p>4 全員が後ろにそることができたら成功。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-top: 10px;">全員がそることができたかどうか判断が難しい場合には、教師が伝える。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>発展編</p> <p>2人ペアで背中合わせて立ち上がる。</p> </div>	

### 【共有の発達における指導のポイント】

視線の共有	言葉	かけ声のリズムを知る。
	社会性	自分がそりかえる時に、友達に体をゆだねる。
関心しぐさの共有	言葉	かけ声をかける。
	社会性	友達とお互いに体重を支えようとする。
意図の共有	言葉	タイミングを意識してかけ声をかける。
	社会性	タイミングを合わせて友達の体重を支える。
<p>【実際に活動してみても】</p> <p>全員が後ろにをそりかえって、天井を眺めながらしばらく「静」を感じる事ができました。</p>		

# 13 ジェスチャーゲーム（遊び編）

## ジェスチャーを見て当てよう

ねらい

- ・友達のジェスチャーを見て、何を表現しているのかを考えることができる。
- ・ジェスチャーで相手に伝えることができる。



### 【授業の流れ】

準備物	人数
課題カード（遊び編：例えば、縄跳び、サッカーなど）	2人～数人
	時間
	10分～15分

### 展 開

☐ 教師の支援や動きを示す。

- 1 親役（1人）と子役（1人～数人）の役に分かれる。親役がカードを引く人、子役がジェスチャーをする人になる。
- 2 親役は課題カードを1枚選ぶ。本人は見ないようにして子役に見せる。
- 3 子役がジェスチャーで表現をして、親役はジェスチャーから何の遊びを表現しているのかを当てる。

ジェスチャーで表現することが難しい場合には、動画で動きを確認してから行うなど配慮をする。

親役がジェスチャーを当てる時には、ホワイトボードに課題カードを提示し、選択できるようにする。

### 発展編

- ・課題カードを遊びからおもちゃや家電にする。
- ・音声や言葉を使わないで表現する。

### 【共有の発達における指導のポイント】

視線の共有	言葉	課題のイラストに注目する。
	社会性	ジェスチャーをする友達に注目する。

関心しぐさの共有	言葉	遊びの名称を知る。
	社会性	友達のジェスチャーに注目し、自分の表現のヒントとする。

意図の共有	言葉	遊びの特徴（動きや道具）を知る。
	社会性	友達に伝わるように工夫をしてジェスチャーをしたり、友達のジェスチャーから何を表現しているか考えたりする。

### 【実際に活動してみよう】

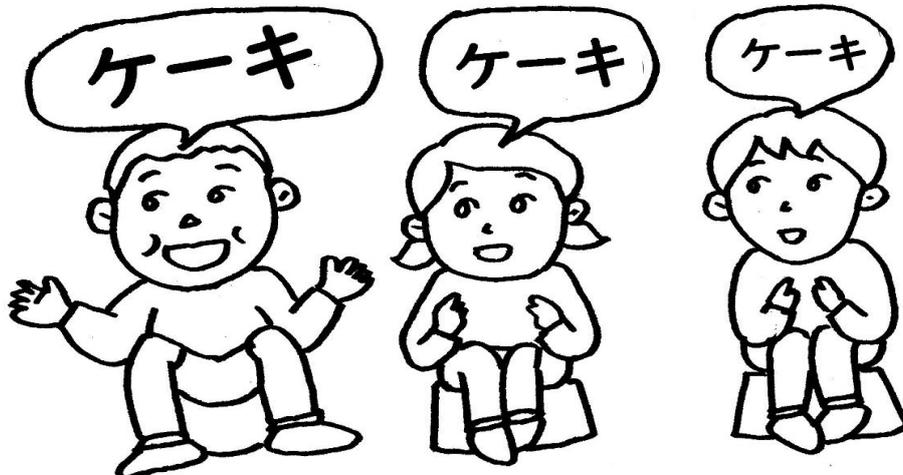
ジェスチャーをやろうとしない子供は、最初は友達の活動の様子を見ることで、どのような活動なのかが分かり、少しずつ友達の真似をして取り組めることが増えてきました。

# 14 大きくなあれ（小さくなあれ）

声とジェスチャーで大きくして（小さく）伝えよう

ねらい

- ・友達に伝わるようにはっきりとすることができる。
- ・ジェスチャーで友達に大きさを伝えることができる。



【授業の流れ】

【共有の発達における指導のポイント】

準備物	人数
・絵カード (食べ物の絵など)	2人~数人
	時間
	5分~10分

**展 開**

☐ 教師の支援や動きを示す。

- 1 輪になって座る。
- 2 大きくしたいものを1つ選ぶ。
- 3 隣の人に、声とジェスチャーで大きくするものを伝える。例えば、「ケーキ」を選んだ場合、隣の人に言葉とジェスチャーで「ケーキ」と伝える。次の人に伝える時に、前の人よりも少し大きくして伝える。

☐ 話すことが難しい児童には、ジェスチャーのみで伝える。

☐ 大きくするイメージをもつことが難しい場合は、少しずつ大きくしたイラストを見せる。

**発展編**

☐ 声と行動で小さくして伝える。

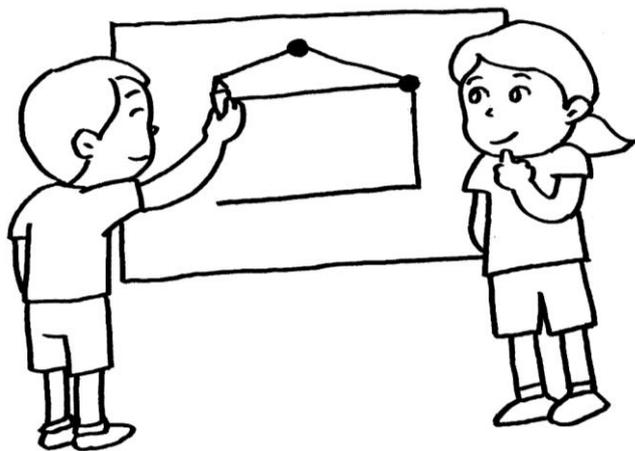
視線の共有	言葉	大きくするものの名称を知る。
	社会性	自分の前の順番の友達を見る。
関心しぐさの共有	言葉	大きい、小さいなどの大きさを表す言葉を知る。
	社会性	自分の順番の前の友達や、次に渡す友達を意識する。
意図の共有	言葉	言葉を聞いて、大きくするものをイメージする。
	社会性	前の友達の大きさを意識して、次の友達には声やジェスチャーを大きくして渡す。

【実際に活動してみて】  
大きくするものはケーキなどの食べ物が人気がありました。最後に全員で「いただきます」と、大きくなったケーキを食べる真似をするのが楽しそうでした。

# 15 一筆書き

2つの点から始めて、2人で交互に一筆書きで描こう

ねらい 友達と交互に一筆書きで絵を描くことができる。



### 【授業の流れ】

準備物	人数
・紙やホワイトボード（点を2つ書いたもの） ・ペン	2人～数人
	時間
	10分～15分

**展 開**

☐ 教師の支援や動きを示す。

- 1 点を2つ書いた紙を用意する。何を書くのかお題を決める。
- 2 友達と交互に点に一筆書きで線を書き加えていく。

☐ 書くものをイメージすることが難しい場合は、カタカナや漢字、直線で描ける絵など見本を用意する。

- 3 出来上がった作品を鑑賞し、絵にタイトルをつけたり、感想を伝え合ったりする。

☐ 感想を伝えることが難しい場合には、教師が作成過程や作品を評価して伝える。

**発展編**

☐ テーマを決めなくて一筆書きで線を書き加え、完成した作品にタイトルをつける。

### 【共有の発達における指導のポイント】

視線の共有	言葉	絵のお題を知る。
	社会性	友達が描く様子に注目する。
関心しぐさの共有	言葉	お題を意識しながら線を書く。
	社会性	友達の描く様子や線に注目する。
意図の共有	言葉	友達の描いた線を使いながら、お題を意識して線を加える。
	社会性	友達の描きたいものを考えながら、一緒に作品を完成させようとする。

【実際に活動してみて】  
1人1本ずつペンを用意しましたが、2人同時に描いたりしたため、1本のペンを交互に使うことで、ペンを介したやりとりができました。

- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること
- (3) 自己の理解と行動の調整に関すること
- (4) 集団への参加の基礎に関すること

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること
- (2) 言語の受容と表出に関すること

# 16 カードめくり

友達と一緒にたくさんカードをめくろう

ねらい

- ・お助けマンを呼んだり、お助けマンになったりすることができる。
- ・友達と協力してカードをめくることができる。



## 【授業の流れ】

準備物	人数
・バナナカード（表はバナナでそのうち1枚は裏がお助けマン）	4人～数人（偶数）
・リンゴカード（表はリンゴでそのうち1枚は裏がお助けマン）	時間
	10分～15分

**展 開**

☐ 教師の支援や動きを示す。

- バナナカードとリンゴカードの表を上にして床にばらばらに並べる。
- バナナチームとリンゴチームに分かれ、合図に合わせて自分のチームのカードをひっくり返す。各チーム1名はお助けマンとして待機する。
- カードの裏面が「お助けマン」だったら、自分のチームから助っ人を連れてくる。

☐ お助けマンを呼ぶ間は、一時ゲームをストップする。

☐ 友達の顔を見る、言葉をかける、手を引くなど自分なりの方法で関わられるようにする。

- 合図があるまでたくさんカードをめくる。

☐ カードの枚数よりも友達同士で協力することを大切にす。

**発展編**

☐ 手つなぎマークを作り、2人で手をつなぎながらカードをめくるなど友達と関わるルールを増やす。

## 【共有の発達における指導のポイント】

視線の共有	言葉	バナナ、リンゴなど果物の名称を知る。
	社会性	お助けマンを頼んだり、お助けマンになったりするとき、友達の顔を見る。
関心しぐさの共有	言葉	色の名称を知る。
	社会性	声をかける、手を引くなど自分なりの方法でお助けマンの友達を呼ぶ。
意図の共有	言葉	カードの数が多、少ないが分かる。
	社会性	お助けマンのルールを理解し、声をかけてから友達を呼ぶ。

【実際に活動してみて】  
お助けマンの子供が一目で分かるように、チームごとの色のピブスを着用しました。

